

令和7年度 星置東小学校全国学力・学習状況調査の結果について

【国語】

教科に関する調査の結果概要及び改善の方向等について

本校の概要

【内容】

「言葉の特徴や使い方に関する事項」

◇全国平均正答率とほぼ同程度であるが、やや上回っている。

「情報の扱い方に関する事項」

▼全国平均正答率を下回っている。

「我が国の言語文化に関する事項」

▼全国平均正答率を下回っている。

「話すこと・聞くこと」

◆全国平均正答率とほぼ同程度であるが、やや下回っている。

「書くこと」

△全国平均正答率を上回っている。

「読むこと」

▼全国平均正答率を下回っている。

今回の調査における課題

➤ 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。

＜出題内容＞

記録したものの書き表し方について正しく説明されたものを選択する。

➤ 時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付くこと。

＜出題内容＞

経験したことから正しい気付きについて選択する。

➤ 目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝える内容を検討すること。

＜出題内容＞

会話の中の発言の意図を正しく説明したものを選択する。

➤ 事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること。

＜出題内容＞

文章を読み、その要旨として正しい内容を選択する。

改善の方向

➤ 同義語・類義語・対義語といった「意味による語句のまとまり」に注目したり、比較や理由を示す「思考に関わる語句」を活用したりすることを指導していく。

➤ 国語に限らず、使用している言葉の意味や形について問い返したり、必要に応じて調べたりすることを丁寧に行っていく

➤ 集めた情報について「なぜなら～から」（理由）、「たとえば～」（例示）などの語句を使い、自分の考えをまとめ、広げたり深めたりする。また、文章の内容だけでなく、書かれていないことや、物語の続きを具体的に想像したりすることによって思考力や想像力を養っていく。

➤ 文章を読み終えた後に、自分の言葉で文章の要点をまとめたり、要約した内容や感想を他の人に説明することで、自分の理解が曖昧な箇所を明確にしたり、「事実」と「書き手の感情や考え」を区別し、それぞれの役割を理解することができるよう指導する。

令和7年度 星置東小学校全国学力・学習状況調査の結果について

【算数】

教科に関する調査の結果概要及び改善の方向等について

本校の概要

今回の調査における課題

改善の方向

【領域】

「数と計算」

▼全国平均正答率を下回っている。

「データの活用」

◆全国平均正答率とほぼ同程度であるが、やや下回っている。

「図形」

◇全国平均正答率とほぼ同程度であるが、やや上回っている。

「変化と関係」

◇全国平均正答率とほぼ同程度であるが、やや上回っている。

「測定」

◆全国平均正答率とほぼ同程度であるが、やや下回っている。

➤小数(分数)の加法について、共通する単位小数(単位分数)を捉えたり、それらのいくつ分かを正しく説明したりすること。

＜出題内容＞

小数や分数の加法において、共通する単位小数や単位分数を書く。また、いくつ分にあたるかを説明する。

➤伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見いだすこと。

＜出題内容＞

新品のハンドソープが空になるまでに何プッシュすることができるのかを調べるために、必要な事柄を選ぶ。

➤はかりの目盛りを読むこと。

＜出題内容＞

はかりが示された場面で、はかりの目盛りを正しく答える。

➤「1」を何等分したもの」という視点をもつために、「等分」と「個数」を具体物でイメージする活動、「数直線」を用いて視覚的に確認する活動、そして「通分」の必要性を理解し、分母をそろえることの根本的な意味を問う活動を折に触れて確認していく。

➤比例、反比例など、量と量の関係性のパターンを発見させ、その関係を式に表したり、「もし～だったらどうなるだろうか?」といった問いを立てたりして、理解を深めていく。

➤単位の理解と量感を身に付けるために、目盛りの間隔を意識し、おおよその量を推測する力(量感)を養うことで、目盛りを読む精度を高めていく。

令和7年度 星置東小学校全国学力・学習状況調査の結果について

【理科】

教科に関する調査の結果概要及び改善の方向等について

本校の概要

今回の調査における課題

改善の方向

【領域】

「エネルギー」を柱とする領域

▼全国平均正答率を下回っている。

「粒子」を柱とする領域

◇全国平均正答率とほぼ同程度であるが、やや上回っている。

「生命」を柱とする領域

◇全国平均正答率とほぼ同程度であるが、やや上回っている。

「地球」を柱とする領域

◇全国平均正答率とほぼ同程度であるが、やや上回っている。

➤電流がつくる磁力について、電磁石の強さは巻数によって変わることの知識が身に付いていること。

＜出題内容＞

ベルをたたく装置の電磁石について、電流がつくる磁力を強めるためのコイルの巻数の替え方を答える。

➤水が氷に変わる温度を根拠に、オホーツク海の氷の面積が減少した理由を予想し、表現すること。

＜出題内容＞

海にある氷がとけることについて、水が氷に変わる温度を根拠に正しく予想しているものを選択する。

➤発芽するために必要な条件について、実験の条件を制御した解決の方法を発想し、表現すること。

＜出題内容＞

種子が発芽する条件を調べる実験において、条件を制御した正しい解決方法を選択する。

➤粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、土の量と水の量を正しく設定した実験の方法を想起し、表現すること。

＜出題内容＞

粒の大きさによる水のしみ込む時間の違いを調べる実験の条件について、一方の条件を踏まえて、他方の条件を正しく表記する。

➤電磁石の磁力を高めるには、電流を強くする、コイルの巻数を増やす、鉄心（芯になる金属）を入れる、コイルの導線を太くするなど、学習したことを振り返る。

➤また、上記の電流を強くするためにはどうすればよいのかを考えることによって、乾電池の数とつなぎ方によって強くすることができる実験を想起させるなど、関連付けて知識の定着を図る。

➤教科を問わず、根拠をもとにして、そこから何が予想されるのかを考えることを丁寧に指導していく。

➤調べたい特定の条件だけを変え、他の条件をすべて同じにした上で、その変化が結果にどのような影響を与えるかを確かめる比較（対照）実験において、特定の条件を何にすれば解決できるのかを繰り返し学習していく。

令和7年度 星置東小学校全国学力・学習状況調査の結果について

【質問】

児童質問に関する調査の結果概要

<肯定的な回答割合が 全国と比べて多い質問>

- 『自分には、よいところがあると思いますか』
→自己肯定感が高いと言えます。自己肯定感の高さは学力向上にもつながる傾向が見られ、挑戦への意欲を高め、前向きな行動を促します。また、自分が誰かの役に立っているという「自己有用感」にもつながります。これからも、友達との関わりの中で自身の貢献を実感し、お互いに尊重し合いながら、周りの人の役に立つ経験を積んで高めていきます。
- 『将来の夢や目標を持っていますか』
→「これを達成するために今日はこれをやろう」と、日々の行動に意味が生まれ、充実感やモチベーションを高く保つことができます。また、「目指す場所」がはっきりしていることで、「この困難を乗り越えれば、目標に一步近づける」と考えられ、くじけずに困難に立ち向かう勇気が湧いてきます。上記の自己肯定感や自己有用感の高まりが影響していると考えます。
- 『読書は好きですか』
→学校司書さんを中心に、本校のライブラリー環境を整えてくださっています。これからも「耳をすませて楽しむおはなしの会」「10月全校朝会でのおはなしの会 SP」といった活動を通して、本の面白さを伝えていきます。

<肯定的な回答割合が 全国と比べて少ない質問>

- 『5年生までの学習の中で、PC/タブレットなどのICT機器を活用する際に、友達と協力しながら学習を進めることができましたか』
→タブレットを使い友達と協力して学習する利点は、思考力の深まりや多様な視点の獲得・友達とのコミュニケーションの向上などが挙げられます。これからも、グループで一つの課題に取り組み、それをグループ内で共有・検討することで、協働的な学びを深めたり、他者の意見を参考にすることで、多様な視点を持つことができ、自身の思考を深めたりしていきます。そして、学年に応じて他者の意見を尊重し、自分の考えを伝える力を養っていきます。
- 『新聞を読んでいますか』
→新聞記事は複数のチェックを経て配信されるため、信頼性が高いメディアと言えます。新聞を読むことは、信頼できる情報を広範に収集でき、世の中の出来事の全体像を把握できます。また、教養や語彙力、読解力を高められ、思わぬ発見から新たな興味や仕事につながる出会いもあります。学校だけではなくご家庭でも、新聞の有無に関わらず、ニュースを話題にしてみることもよいかもしれません。

今回の調査を通して明らかになった課題は、「協働的な学びによってより一層互いに高め合う」ことです。友達と協力しながら学習を進めていくことで、課題が解決していくことに価値を見出すことができるように、教育活動・学習活動の充実を図ります。一方、今年度の本校の教育の重点の一つである「自己有用感を高める」ことも、1年生のお世話や体育大会での子ども同士のかかわりを通して高まってきていることが分かりました。今後も、かがやき活動や学年間のかかわりを大切にする教育活動をしていきます。